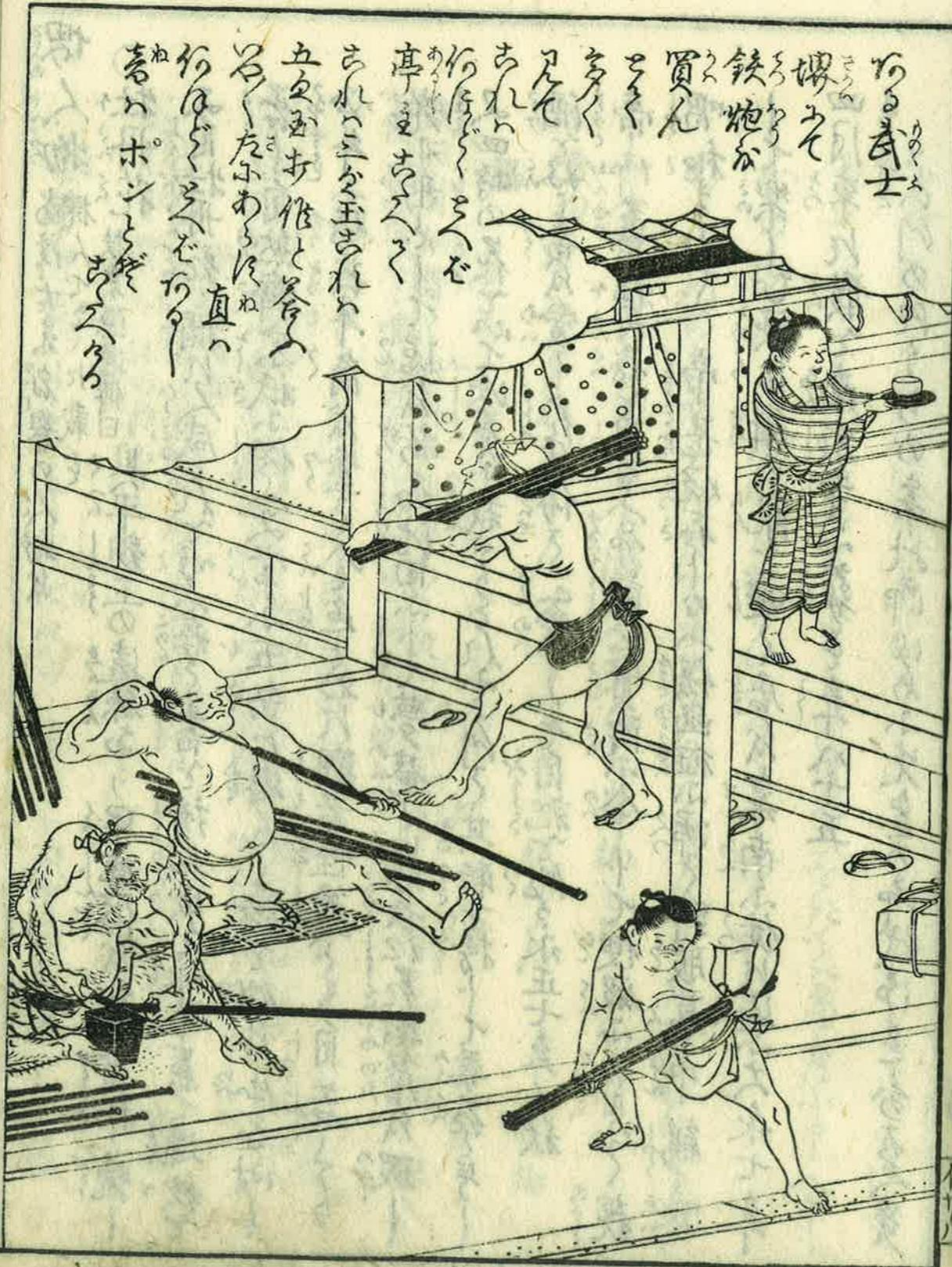


錫鳥  
錫治  
錫津



人物 摺んで古來名譽の人物を

牡丹花 桂宗隱逸傳曰 奥平親王の遠孫也

奥平親王の遠孫

物

牡丹花 桃源隱逸傳曰 奥平親王の遠孫あり 卶塵俗に生く 肖柏と號す  
又自牡丹花と稱ばれ咸と以て喜び書道と漢和歌を能く兼て速歌を  
好む自然齊宗祇が從ふ又常小五岳に遊んで詩を作ら出るはす  
必牛小騎其牛角に塗く金色とねに觀者怪矣とも自若す  
老小畜として園内移動して夢菴といひ長松に樹簷代環  
又四時の花として次第に裁りしんすより其軒を榜じて弄舟を号す  
酒と煙草を愛し花名俳句とこ愛として自記を作り永正七年の秋  
帝嘗夏小牡丹花を貞室の御藤公實降小令にて便殿小召貞と親  
唱和すし  
一 帝甚悦喜之而後幽栖小歸す野服葛巾觴咏  
一 樂む厥后攝の亂で避く居て象南小徒に遂に大永七年  
四月卒し體を南宋寺小墓を年八十五

小曲發句へ肖柏法師やうだ  
あつてうへて先づちへ小清風  
あそびすよ一歳代の後半あらうて發句ふとてく南宮子やへ  
おのんよ同、同情成あひひりくへ  
わうりのふをとた月とえふとた月、けきるまのやくそと  
ひ、あがやあせうと拂拂そのち肖柏とりそ  
發句 宝ふとたみん世やいへよ秋の月  
 肖柏

御製  
金粉舞 観る所へ  
山形の勝手へ ひきこもる  
下田屋 宗柳 韋竹齊 等 恵清齋  
藤 實隆公と唱和の事へ 次下光明院の條ト  
日 肖柏曾く牡丹の内向あり故小世人牡丹花と稱に肖柏傳より有  
来 さうな花やあらゆるふうみ まよ  
尚津歌の連歌の門等多  
瀧邊付雨

吉田有朋は下秋にあらわのやれど、世人の氣風

肖柏

○紹鷗

一閑居士又太黒菴と号す

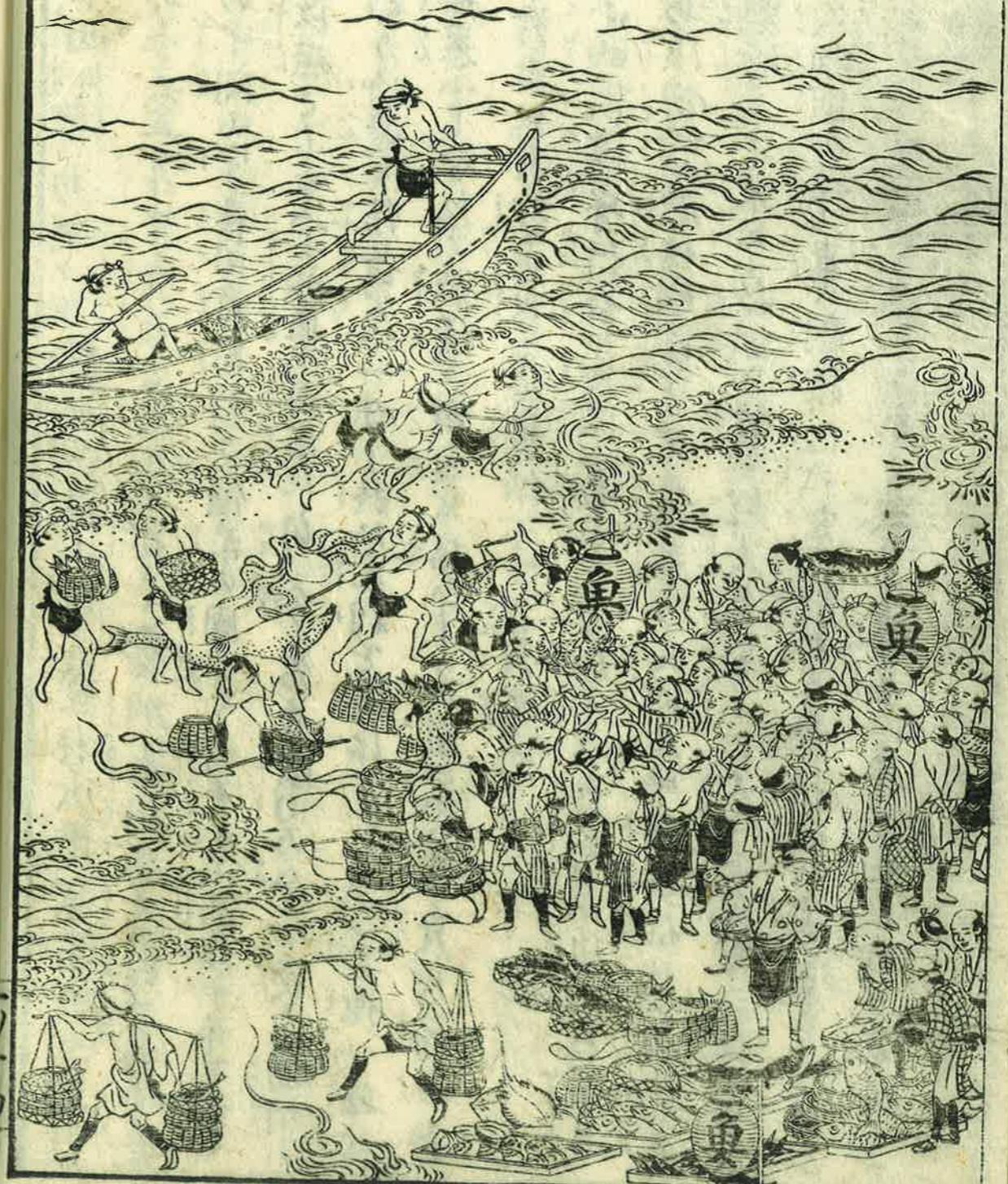
當津南莊舶才附小住に茶道の達人

あくべ都鄙宗通と称く崇敬すり初武田信玄の裔孫あり祖父仲満應仁の亂小村文信久小敵として  
則武田信玄の裔孫あり祖父仲満應仁の亂小村文信久小敵として  
孤と成四方小周流或は都四條畷子堂の隣家小幽棲して大黒庵と  
桶一雜髪して一閑居士となり防列大内義弘在京の時に時々伺候  
又西二條逍遙院殿小園く歌道を學び其源を伏感と見て古今の  
傳が授り其次五條ね原附小南都の珠光の弟子宗珠宗悟といふ  
教矣有あり紹鷗つひ小所前小至う茶道を修練と博へ能く殊  
秋の紅葉小鹿の山伏圓を圍爐裡ふとぞりて長夜を樂み或時に  
紫雲大林和尚と稱して禪法小深公一四大本末室伏悟く遂小  
弘治元年乙卯十月廿六日卒於仰巖公南宗寺にて葬れ  
紹鷗の身死宗鏡といふ其子玄武即安齊と号す幼年より朝齋主と  
溪庵和尚の門下に隨侍せられる

○小西如清 初彌十郎累世湊津小住ぐ薬種を賣富有屋伏闇に  
おう天正年中秀吉公備州小在く藝州毛利輝元小對陣に播磨  
の中間小字喜田直家あり備前國守く秀吉公小西弥十郎を以  
良媒とてより小西直小直家にり今秀吉歿田の令と受て播州小  
あう拂邊も信長公へ一味一共に毛利と退治一夕く英作一函公  
加恩小字直家と張儀が辨吉公摺ひて直家昂直た同心を  
秀吉公其功を賞ドて領地一千石伏賜

○小西攝津守行長ハ如清が長男あり幼く秀吉公小近侍に長生  
の後領地を肥後國小賜く宇土城主く文禄年中朝鮮征伐の時行長  
魁將として不日小故城と敗て鋒人伏魔小に大小武名公ニ韓ノハ  
大明國小摺事の朝鮮征伐記小詳めり帝找朝の書小手をうのみ  
れど明書懲忠錄小も委く載らる慶長五年石田之成が反逆よ  
黨一と滅亡

市奥浦





一休和尚ハ夢の  
高須少て遊女

地獄とりふと  
よんであそび

戯れ酒食の

三業四諦無能道  
と風ひゆゑ

万法千門只心

と句と絶え共小

うゑ  
たうむれ  
うゑ

うゑ